

第3号議案 平成30年度事業計画の修正に関する件

平成30年度事業計画

平成29年度は、1937年に四万十川流域の森で、日本ではじめてヤイロチョウの繁殖が確認されてから80周年になることから、巡回パネル展や記念講演などの記念事業を行った。また、自然林再生プロジェクトは一口オーナー募金とナショナル・トラスト助成金と併せて600万円余で、下道地区のヤイロチョウの森の入口に6haのヒノキ林を取得した。こうした活動の延長上に下記の事業に取り組むものとする。

【トラストの森の拡充と、保全・パトロールの取り組み】

- 1、ヤイロチョウなど貴重な生物が生息する生態系を保全するため、募金活動を継続して行い、トラスト地の保全・拡充に努める。四万十町下道地区では、ロッジ『八色鳥森の家』『観察小屋』などを会員やボランティアの活用以供する他、四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターを普及教育施設として活用する。その他の保護区についても、保全・パトロールを行い、随時、会報誌『森のしずく』等で結果を報告する。

平成20年に高知市長浜地区に開園した『鶴田公園』は、管理人が高齢化により不在になったため、今後の運営の方法を検討する。

(1) (2) (3) (4)

【自然林再生とワンダーランドの森の整備の取り組み】

- 2、平成29年度に引き続いて、ヒノキ林を間伐・造成した草地に野生シカの生体捕獲施設を設置し、高知県より学術捕獲許可を受けて、シカの食性調査や行動圏調査を行う。こうした調査結果を参考にして、野鳥やリスなどの多様な生物が生息する自然林を再生する森づくりに着手する。具体的には、地域の人々や都市に暮らす人々にとっても「ふるさとの森」となるように、美しい眺望・多様な自然体験のできる施設・遊歩道コースなどを充実させ、特に子どもたちにとって魅力のある「ワンダーランドの森」として整備する。具体的には公設の「ウォーキングトレイル」や、当協会が新設した「ヤッホー展望台」などを軸に、ダム湖のホタル観察コース、ボートによる自然体験コース、下道～下津井地区の尾根を周遊するトレッキングコースなどを整備して、トラスト地を軸にした『自然公園』機能を充実させる。

(2) (4) (5)

【企業、行政、他団体等と協力した森や水辺の保全活動】

- 3、王子HD株式会社と協力して、保護協定を結んだ社有林の植生調査や、生息するヤイロチョウの保護調査・パトロールなどを行う。

大豊町立川のトラスト地については、大豊町森林組合や他団体と協力して、自然体験ができる施設の整備を検討する。

(2) (8) (9)

【全国的なトラスト活動の普及】

- 4、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会、公益社団法人トンボと自然を考える会、NPO 砂浜美術

館などと実行委員会をつくり、ナショナル・トラスト全国交流大会のプレイベントとして植樹イベントや東京でのヤイロチョウ講演会を開催する他、年度後半にも普及啓発を目的にした巡回展示会や講演会・映画会などを開催する。 (1) (5) (7) (8)

【出版活動の強化・拡充】

5、ナショナル・トラストに関する思想や、当協会の取り組みを会員や一般の人々に知っていただくため、会報誌『森のしずく』を年4回発行する。中西悟堂協会編により当協会が発行していた『野鳥居』については、中西悟堂協会会長の津戸英守氏が9月にご逝去されたことから、継続的な発行のあり方について見直しを行う。

また、王子ホールディングスの協力を得て、絵本「ヤイロチョウを守ろう」を発行する。

講演会、巡回パネル展などの普及啓発活動に加えて、これまでに蓄積された調査研究活動の成果などをとりまとめた出版事業を行う。具体的には、経費削減のため、電子書籍などの媒体の活用や、編集などの一部業務を外部委託して行う。

(1) (5) (6) (9)

* () 内は定款に定める目的に定める記号